

謹賀新年

『美ら海の防人』

海上自衛隊 第5航空群



新年のご挨拶

第5航空群司令
海将補

金嶋 浩司

発行：沖 縄 二 火 会
(海上自衛隊第5航空群支援団体)
印刷：新 栄 印 刷

はいさい、いいそーぐわちでーびる
 新年あけましておめでとうございます。第5航空群司令に就任して、3度目となる新春を平穏の内に迎えることができました。隊員及び隊員家族を代表し、令和4年新春の訪れを協力団体の皆様をはじめとする沖縄県民、そして日本国民の皆様とともに心からお祝いしたいと思います。皆様におかれましては、一昨年以来の長引くコロナ禍により、事業や生活等に甚大な影響を受けられたものと推察いたします。また第5航空群計画の行事等の多くを取りやめざるを得ませんでした。そのような状況においても、コロナ禍以前と変わらぬ暖かいご支援、ご理解、ご協力を頂きまして、隊員を代表して厚く感謝と御礼を申し上げます。コロナに関する我が国の状況は、ワクチン接種の進展に伴い、感染者数が大幅に抑制され、各方面分野においてウイルスをコントロールしつつ以前の生活を取り戻すための様々な取り組みが模索され始めています。今後の第5航空群におきましても、防衛省の方針に基づきつつ、感染防止に向けた工夫に最大限留意して各種任務に当たることがもちろんのこと、皆様と触れ合える各種行事等を再開していく所存です。

さて、現在の我が国を取り巻く国際情勢は、中国による力を用いた現状変更への試みが一段と顕在化し、大きな脅威となっています。巨大な経済力を背景に質・量ともに軍事力を強大化させつつ、南沙西沙諸島周辺での岩礁占拠に引き続き埋立てと要塞化、香港国家安全維持法施行による民主主義の徹底的な排除、尖閣諸島周辺での示威的な活動常態化、さらには空母を含む戦艦艦艇群の沖縄周辺海域を経由しての太平洋への展開など、我が国周辺の安全保障環境における緊張を高める最大の要因となっており、今後近い将来には台湾に対しても、一つの中国を実現させるための現状変更を強要していくことも予想されています。

また、第5航空群はソマリア沖アデン湾における海賊行為の抑止と、中東地域での安定した海上交通に資するための情報収集活動のためにアフリカジブチ共和国に隊員及びP-3C哨戒機を派遣しており、約60名の隊員はジブチで令和4年の元旦を迎えました。

このように激動の安全保障環境の中、我々第5航空群は、我が国の平和と安全を守るとともに、東アジアをはじめとする国際社会の安全保障環境安定化に貢献するため、「美ら海の防人」としての自覚と誇りを胸に隊員が一致団結して各種任務等に取り組んで参りますので、引き続き皆様からの心温まる激励やご支援・ご協力をいただければ幸いです。

最後になりますが、今年4月に「50周年開隊記念式典」を規模を縮小しつつも計画しておりますので、皆様とお会いできることを心より楽しみにしています。

本年が皆様にとりまして幸多き年でありますことを祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。くとうしんゆたさるぐとう、うにげーさびら

あけまして
おめでとうございます。

本年も「でいご」のご愛読と
原稿・広告協賛のご協力・ご支援
よろしくお願いたします。



年頭のご挨拶

沖縄二火会 会長 佐久本 武

海上自衛隊第5航空群の隊員及び自衛隊各部隊の皆様並びに本紙「でいご」愛読者の皆様、明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染も落ち着きを見せ、明るい令和四年の新春を健康に迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

令和三年は新型コロナウイルス禍にあって、自衛隊及び当会を含む各協力団体の行事がほぼ中止となり、隊員の皆様と当会会員の親睦の機会がほとんど無かった事は残念でなりません。しかし、そのような情勢下でも、第5航空群においては金嶋群司令指揮の下、尖閣諸島をはじめとする東シナ海の哨戒任務に加え、ソマリア沖の海賊対処行動等を目的とした海外派遣を継続するなど、休むことなく防衛最前線で任務に邁進されており、あらためて第5航空群の各級指揮官及び隊員の皆様に対し感謝申し上げます。

さて、昨年10月に我が国の総理大臣が交代し、衆議院議員選挙が行われましたが、沖縄県では辺野古基地反対の勢力と自民・公明の与党勢力が拮抗する結果となり、経済対策・コロナ対策とともに、尖閣諸島の領有権を主張する周辺国への牽制において、在沖米軍と陸・海・空自衛隊の連携が不可欠であるとの認識が広く伝わりつつある結果

と思います。膨張し続ける中国に対しては、日米豪印のQuad(クアッド)とともにEU欧州連合も台湾との関係強化など牽制を強くしています。中国が尖閣諸島を台湾の一部と主張していることから、我が沖縄県にとって他人事と言えないものであると懸念しています。

今年には沖縄が本土復帰を果たして50周年の節目となりますが、復帰前後の沖縄の経済活動とともに防衛問題において、在沖米軍や自衛隊がどのように関係してきたかを再認識して、今後の方向を見定めるべきではないでしょうか。

私ども沖縄二火会は、第5航空群の支援活動を通じて、東シナ海周辺海域の防衛問題を勉強させて戴いており、国家の防衛最前線を担当し日々厳しい任務を遂行している第5航空群の隊員諸官が、今後とも金嶋群司令を中心として任務に邁進されますよう心よりお祈り申し上げますとともに、引き続き支援活動を継続する所存です。

末筆ではありますが、第5航空群の皆様及び沖縄二火会会員の皆様並びに防衛関係団体各位、さらにご協力を戴いている皆様方が、ご健康で幸多き一年を迎えられますようお祈りして年頭のご挨拶とさせていただきます。





新年のご挨拶

沖縄県防衛協会 会長 國場 幸一

新年明けましておめでとうございます。

海上自衛隊第5航空群の皆様には、ご家族共々希望に満ちた新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

隊員の皆様におかれましては、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、その感染防止対策に万全を期しつつも海洋国家である我が国の海を守るため言わば「海の防人」として、尖閣諸島を含む南西諸島周辺海域の警戒・監視のみならず、災害派遣及び救難活動等崇高な任務遂行のために日夜、身を賭してご尽力頂いていることに、心より敬意を表します。

わが国を取り巻く安全保障環境は、年々その厳しさを増してきています。とりわけわが国の領土たる尖閣諸島を巡る中国との緊張は予断を許さない状況にあり、第5航空群の行う哨戒機P-13Cによる同周辺海域へのパトロール活動に寄せる国民・県民の期待と信頼は極めて高いものがあります。

またわが国は、エネルギー資源を含む様々な原材料等の多くを海外に依存しており、国際社会の平和維持と安定が我々の生活と安全に直結しています。このような情勢下、昨年

も第5航空群の皆様がアフリカのソマリア沖・アデン湾における海賊行為抑止のために「海賊対処行動航空隊」の第44次隊として派遣され、その任務を見事に完遂されました。平成21年に始まったこの海賊対処活動に第5航空群が派遣されたのは実に通算17回目であり、改めて第5航空群の皆さんの献身的な活動に深甚なる敬意と感謝を表します。

残念ながらも昨年は、コロナ禍の影響により、県民が第5航空群の活動を直接知ることが出来る様々な行事・体験等の実施に大きな制約を受けました。しかしSNSやラジオ放送による第5航空群の活動状況の情報発信のみならず、清掃ボランティアや沖縄戦没者慰霊の日における慰霊と追悼の意を表する地道な活動が海上自衛隊への県民の理解を促進させる大きな力になっていくことを実感しています。

どうか新しい年におきましても、第5航空群が海将補金嶋浩司群司令を中心「国を守る」という崇高な使命を全うするため精強な部隊を錬成されますことを、また隊員並びにご家族の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。





新年のご挨拶

一般社団法人
仲縄海友会
会長 門馬 規雄

海上自衛隊第5航空群の隊員諸官及びご家族の皆様並びに本誌「でいご」愛読者の皆様、明けましておめでとうございます。

令和4年の輝かしい新年にあたり、皆様にはご家族共々希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

一昨年来、新型コロナウイルス感染症対策のため、官民を問わず多くの行事が中止又は縮小せざるを得ない中、海上自衛隊第5航空群隊員の皆様には、感染防止に細心の注意を払いつつ種々の苦難や制約を乗り越えて済々と任務を遂行し続けてこられましたことに敬意を表します。

尖閣諸島を含む南西諸島周辺海域の警戒監視任務は益々重要性を増し、災害派遣、民生協力などの国民の生命財産を守る重要な任務に加え、平成21年に開始されたソマリア沖アデン湾派遣海賊対処行動航空隊は、こちらも国際的な感染症対策での行動制限下で、昨年は第42次隊及び第44次隊を派遣し、それぞれ任務を完遂され、国際社会の平和と安全の確保にも貢献しております。

昨年は感染症対策のため、練習艦隊の沖縄寄港や第5航空群創立49周年を隊員の皆様や支援団体の皆様と共に祝いできずに誠に残念でした。

我々沖縄海友会は、沖縄の海軍出身者によって設立された、先の大戦で祖国防衛のために国に殉じられた海軍出身者の慰霊を目的とする法人団体ですが、会員の高齢化が進み現在は海上自衛隊のOB、OGが中心です。

毎年5月27日に第5航空群の皆様のご支援をいただいで海軍戦死者慰霊之塔での慰霊祭を実施してきましたが、一昨年来、コロナ禍のため、この海軍礼式に則った厳粛な慰霊祭を催行できず、役員による慰霊及び自主参拝となりましたが、練習艦隊司令官以下隊員の皆様には沖縄寄港の際に海軍戦死者慰霊之塔に献花していただき感謝しております。

第5航空群の皆様には、これまでのご支援、ご協力を深くお礼申し上げますとともに、これからも変わらぬご支援を賜りますようお願い致します。

我々沖縄海友会は、今後とも沖縄県防衛協会、沖縄二火会、沖縄四樹の会等の協力団体と連携し、自衛隊に対する県民の理解を深めると共に防衛思想の普及啓発に努め、第5航空群をご支援して参る所存です。

結びに、第5航空群隊員とご家族の皆様のご健康と益々のご活躍をご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。





年頭の挨拶

沖縄県知事 玉城 デニー

はいさい、ぐすーよー、いいそーぐわちでーびる

新年、あけましておめでとうございます。

海上自衛隊第5航空群所属の隊員の皆様並びに御家族の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎え、ご壮健にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

隊員の皆様におかれましては、南北400キロメートル、東西1,000キロメートルにわたる広大な海域を有する島しょ県である本県において、365日休むことなく警戒・監視任務に従事いただいていることに加えて、災害派遣、船舶や航空機の救難など県民生活の安全と安心の向上に多大な貢献をされていることに、県民を代表して心より感謝申し上げます。

また、昨今のコロナ禍の中にあっても、あらゆる事態に対応できるよう常時24時間態勢で災害等の発生に備える皆様の姿勢は、県民に非常に大きな安心感を与えるものであ

ります。

さらに、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処行動及び情報収集活動に、第5航空群から、計17回の派遣が行われるなど、国際社会における平和秩序の確保に幅広く貢献にされており、ことに深く敬意を表します。

皆様には、「美ら海の防人」として、県民の理解と信頼のもと、その責務を全うされることを御期待申し上げます。

今年には沖縄県の日本復帰から50年となりますが、同時に第5航空群が発足してから50年を迎える年ともなっており、節目である新しい年が平和で実りある年となることを願いますとともに、第5航空群所属の隊員並びに御家族の皆様への御健勝と今後ますますの御活躍をお祈り申し上げます。

新年の御挨拶といたします。くとうしん、ゆたさるぐとう、うにげーさびら 今年もよろしくお願ひいたします。



年頭の挨拶

那覇市長 城間 幹子

はいたい、ぐすーよー、いいそーぐわちでーびる。

海上自衛隊第5航空群の隊員並びにご家族の皆様におかれましては、新たな希望と抱負に満ちあふれた新春を迎えられ、またことと心からお慶び申し上げます。

隊員の皆様におかれましては、南西諸島近海の海域の警戒・監視、災害派遣、船舶の捜索救難活動や災害派遣への対応準備など、広大な海域を有する沖縄県及び我が国において、海の安全及び国民の生命・財産を守るという重要な任務に365日休むことなく取り組まれていることに対して、心より敬意と感謝の念を表します。

また、国際社会への貢献活動として、ソマリア沖・アデン湾における海賊行為に対処するため毎年隊員を派遣されており、コロナ禍の派遣は、通常以上に負担が大きいものであったと思います。そのような中、国際社会の平和秩序の確保に貢献し続けていることへ深く敬意を表します。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、地域との交

流行事の多くが中止となり、またが、本市・本県の子ども達に喜ばれている「雪のプレゼント」等が再開されることを心待ちにしております。

さて、今年は、沖縄県の本土復帰から50年目となる年であるとともに、海上自衛隊第5航空群においても創立50周年を迎えられます。「美ら海の防人」として地域の安全と平和のため尽力されている皆様の活動を通して築かれてきた市民・県民の信頼が、今後ますます大きくなっていくことを御期待申し上げます。

本市では、平和を希求する想いを発信し、平和の尊さを受け継いでいくまちづくりを推進しております。今後とも、本市の市政運営についてご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年も我が国のみならず、世界の国々が共に恒久平和への道に向かうことを願うとともに、海上自衛隊第5航空群隊員並びにご家族の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。いっぺーにふえーでーびる。





第5整備補給隊 岩切 士長

この度、無事に成人を迎えられたことを嬉しく思います。幼い頃からここまで育ててくれた両親に改めて感謝の気持ちを感じています。

今は周りの方にご指導いただきながら、ここで多くの知識を吸収し、わからないことをわからないままにせず、失敗も経験してその経験を糧にすることで同じことを繰り返さないのが成長するために必要なので、学ぶ姿勢を大切に。して日々の仕事に取り組みたいです。これから成人として多くの決断をしなければならぬ場面があると思います。成人としての自覚を持ち、自分の行動には責任を持って大人になれるよう精進します。



第5整備補給隊 武 士長

この度、新成人を迎えることになりました。20歳という、節目の年を迎えるにあたり、様々な制限が解除され

ると共に一つ一つの行動に責任が伴ってきます。

今までは、職場の先輩方に多々迷惑をかけることがありましたが、今後はそのようなことを起こさないために、社会人として、また自衛官として、自覚ある行動し、先輩・後輩から信頼される成人になりたいと思

今後は、仕事やプライベートでも、周りのことを考えて行動し、感謝の気持ちを忘れずに頑張りたいと思います。



第5整備補給隊 菖蒲 士長

今年度も、新型コロナウイルスの影響により、とても大変な年になりましたが、こうして無事に成人を迎えることができたことをうれしく思います。また、今日までご指導いただいた方々に感謝申し上げます。

実際には働き始めたからこそ分かる多くの苦労や、大変なことも多くありました。これからは、知識技能を更に磨き、一日も早く職場の先輩方のような立派な自衛官になり、後輩からも頼られるような大人になりたいです。



第5整備補給隊 村川 士長

この度、無事成人を迎えることができました。

これまでの人生を振り返ると、両親に支えてもらい、優しく、厳しく指導してもらいながら、ここまで育てていただいたことを、改めて感謝する気持ちで一杯です。

これからも多くの人との出会いや、困難な出来事が待ち受けているかもしれないが、感謝を忘れず、積極的に行動できる社会人を目指し、胸を張って頑張っていきたいと思

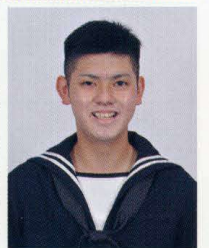


第5整備補給隊 楳川 士長

この度、成人を迎えることができ、大人の仲間入りすることができました。

今後は、成人としての権利を享受し、また義務遂行しつつ、自衛官として責任感と使命感を持って行動できるよう心掛けます。更には、何事にもチャレンジ精神を絶やさないよう努力していきたいです。

また、両親をはじめ、お世話になった全ての方々への感謝の気持ちを忘れず、少しずつ恩返しできるように頑張ります。



第5整備補給隊 金城 1 士

この度、無事成人を迎えることができました。

私の新成人としての抱負は「正義感のある行動をとること」です。正義感のある行動をとるためには心身ともに精強であることが大切であると思います。そのため、空いた時間を活用して体力錬成に励みます。また、自衛官は様々な場面において注目されることが多いため自衛官として自覚のある行動をとっていきたいと思

この度、無事成人を迎えることができました。

20歳という年齢を迎えるということは、世間一般的には大人になるということですが、様々な制限が解除されますが、その分多くの責任を伴うことになります。

今後の目標は、自分からたくさんの方にチャレンジすることです。

仕事でもプライベートでも、自分からいろんなことにチャレンジし、何でもできる人になれるよう、今後も感謝の気持ちを忘れることなく過ごしていこうと思



第5整備補給隊 福岡 士長

無事に成人を迎えることができ、両親、家族、先輩方へ心から感謝を申し上げます。私の新成人としての抱負は「感謝の気持ちを忘れず、責任と自覚ある行動」です。今日まで育ててくれた両親への感謝の気持ちを忘れず、成人として求められる責任を自覚し、諸先輩方に一日でも早く追いつけるよう努力し、職務を遂行していきたいと思います。

成人を迎えるまでの日々を乗り越え、この日を元気に迎えられることを嬉しく思います。

私の新成人としての抱負は「自分の言動に責任を持つる社会人になること」です。これから、今まであまり感じられなかった責任のしかかかってきます。一つ間違えれば誤った道に行ってしまうため、自分の強い意志を持つことが重要となってきます。自分の意思で物事を決め、任されたことは責任を持って出来るように精進していきたいと思います。



第5整備補給隊 福永 士長



第5整備補給隊 山内 士長

この度は、無事に成人を迎えられたことを嬉しく思います。

ここまで育ててくれた両親、沢山の人々との出会いに感謝の気持ちでいっぱいです。

社会人の仲間入りを果たし、ここからは成人として自覚を持ち、落ち着いた行動、両親に恥じない成人になれるよう、今後も感謝の気持ちを忘れることなく一生懸命頑張っていきます。



第5整備補給隊 西鶴 士長

この度無事成人を迎えることができました。社会人として自立するため物事の正確な判断及び、責任ある行動をとれるように頑張ります。

職場では航空電子整備員として日々技能の向上に努めるとともに、余暇等の時間を利用して趣味であるバレーボールについて益々腕を磨いていきたいと思えます。



第5整備補給隊 大迫 士長

この成人の日を元気に迎えられること嬉しく思います。

ここまで育ててくれた両親には感謝の気持ちで一杯です。

両親に恥じない成人になれるよう日々努力を忘れずに過ごすとともに、成人としてまた、自衛官としての自覚を持ち、落ち着いた行動を心掛けていきたいと思えます。



第5整備補給隊 田島 士長

成人を迎えることができ、大変嬉しく思います。

成人するにあたって今までとは比べ物にならない「大きな責任」を背負うことになりました。

何事にも挑戦する強い意思を持ち、ここまで支えてくれた家族に感謝の気持ちを忘れずに、日々精進していきたいと思えます。



第5整備補給隊 平田 士長

この度、無事成人を迎えることができました。

ニュース等を見ていると20歳になり、制限の解除によるトラブルが取り上げられているのを、よく見聞きします。トラブルの発生は人間関係が多いと思っています。

そのため、私は良い人間関係が築ける大人を目指し頑張りたいと思えます。

他にも体調管理や体型維持等々に気を付けながら業務やプライベートに望んでいきたいと思えます。



那覇航空基地隊 小林 1 士

この度、成人式を迎えることとても嬉しく思います。海上自衛隊に入隊し、厳しかった教育隊を乗り越え、初めての部隊で勤務し、親元を離れてみて気づくことも多くあり、ここまで育ててくれた家族や親族には感謝の気持ちでいっぱいです。

今後の目標は、社会人として責任感を持つこと、自衛官として任務を遂行できる実力をつけることです。そのためには、先輩方から多くを学び、初心を忘れることなく、何事にも懸命に取り組み姿勢が大切であると考えています。



那覇航空基地隊 大瀨 1 士

この度、成人という人生の節目を無事迎えられたことに喜びを感じております。

これから見聞を広め、多角的に物事を考えられる客観性を養い、先のことを見据えて行動に移せるよう、努めたいと考えています。

また、成人すると様々な制限が解除されるとともに、大人としての責任を伴います。一社会人として、自衛官として自覚ある行動に努め、立派に胸を張れるような大人を目指してまいります。

加えて、自分が先輩方からご教示いただいたように、次に成人する後輩たちもしっかり教えていけるように頑張ります。



那覇システム通信分遣隊 友利 士長

私の新成人の抱負は、今まで以上に責任をもって行動し、信頼を得られる人間になることです。20歳になり、成人として自由が増える代わりに責任も増えると思えます。権利ばかり主張するのではなく、成人としての義務も果たしていきたいです。仕事とプライベートの両立を目指し、理性ある行動を心掛けて、一人前に成長できるように頑張ります。



第5航空隊 「初機長フライト」 紹介

海上自衛隊 第5航空群において「初機長フライト」を終えたP-3C哨戒機のパイロット隊員に感想をお伺いしましたのでご紹介します。

まず、「初機長フライト」とは、各段階の検定をクリアし、初めて機長として航空機を運航するフライトのことです。

初機長フライトに至るまでには多くの訓練を要し、機長として飛行作業に臨むに相応しい知識・技能を備えていると認められなければなりません。そのため、パイロット・戦術航空士にとって「初機長フライト」は、一つの節目とも言えるフライトになります。

今回無事に初機長フライトを終えることができたのは、これまで訓練等でお世話になった先輩方や、家族、たくさんの方々の応援のおかげであると感じております。今後、感謝の心と初心を忘れず、幹部搭乗員として術科技能を磨き、国防の任務に貢献できるように精進してまいります。



那覇着陸後は司令をはじめ、多くの隊員の出迎えとともに初機長セレモニーを催していただきました。無事帰投できたことに安堵した一方、機長としての責任の重大さを改めて一身に感じました。

実際のフライトは概ね計画した通りに進みましたが、一部予期せぬ事態も起こりました。その際、機内に緊張が走りましたが、司令部と連携し、適切に対処することができました。これも各配置の搭乗員がそれぞれ責任をもって事態に臨んでくれたおかげであると感謝しております。



加賀美1尉は、令和3年8月26日に初機長フライトを行いました。

私の初機長フライトは訓練飛行ではなく要務飛行でした。

初めて戦術航空士の資格を取得してから4か月後に初機長フライトを迎え、「いよいよ私も一皮剥ける」という高揚感とともに絶対に失敗できないという責任感を感じておりました。フライトが計画されてからはクリューとともに情報収集及びケーススタディを行い、入念な準備を実施しました。

令和3年7月8日(木)に日本を出国し、アフリカのソマリア沖・アデン湾において海賊対処行動を行っていた派遣海賊対処行動航空隊第44次要員(指揮官・濱川2佐以下約60名)が任務を終え令和3年10月9日(土)に第5航空群所属P-3C哨戒機2機とともに無事帰国しました。

今回の帰国行事は、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言も解除となり、隊員家族や各支援団体等の皆様を招いての出迎えとなりました。

帰国行事では、第5航空群司令(金嶋海将補)をはじめ多くの隊員、隊員の家族、各支援団体の方々が出迎える中、濱川2佐が第5航空群司令に対して帰国報告を行いました。

帰国報告に対し、第5航空群司令が、帰国した隊員の労をねぎらうとともに、任務遂行に対する感謝の言葉を述べました。

また、隊員の家族、各支援団体の皆様へ帰国行事への参加に対し感謝の念を述べられました。第5航空群司令の言葉を聞く派遣隊員たちは、整齊と身を正し、出迎えた隊員たちは、仲間の任務遂行と無事の帰国を大きな拍手を持って称えました。

海上自衛隊の派遣海賊対処行動航空隊は、我が国の生命線である海上交通路(シーレーン)の安定利用を確保するため、P-3C哨戒機2機により海賊行為への対処を行っており、平成21年から今日まで日本とは異なる厳しい環境下において、厳格な警戒監視活動を行い、今年で13年目を迎えた。第5航空群からは、17回目の派遣となり、海上自衛隊全体では、46回目の派遣を実施中である。



派遣海賊対処行動航空隊 第44次要員帰国

第50回USOサービサルット表彰式について
 那覇システム通信分遣隊 先任伍長 藤田曹長

令和3年11月29日(月)に、那覇航空基地内において、第50回USOサービサルット(最優秀下士官表彰)表彰式が開催されました。年に1回開催されるこの式典は、例年であればUSOが所在する米軍基地内において沖縄に勤務する隊員の中から米4軍(陸軍、海軍、空軍、海兵隊)及び陸・海・空の各自衛隊から1名ずつの代表が選出され、7名の隊員が表彰されておりますが、今年も昨年に続き、新型コロナウイルス感染拡大という諸般の事情を考慮し、各部隊個別での、表彰授与という形での実施となりました。

今回選出された那覇システム通信分遣隊の宮下2曹は、電子整備員として電子機器やネットワーク機材、電話回線等の基地内通信インフラ整備に従事し、円滑な部隊運用に欠かせない隊員であることはもちろんの事、プライベートにおいても、積極的に長女の通う小学校のPTA活動や学校行事に参加するとともに、複数の役員を担っています。また児童の登下校ボランティア活動等にも欠かさず参加し、地域児童の安全を守っています。このような地域社会に貢献する真摯な態度は他隊員の模範であり、海上自衛隊にとって将来有望な隊員であるということで表彰されました。

私も、表彰式に那覇システム通信分遣隊先任伍長として出席しましたが、今後、各隊先任伍長と協力し、





2021 USO Okinawa Service Salute honoree
Petty Officer 2nd Class Ryusuke Miyashita
 日本国海上自衛隊 二等海曹 宮下 隆輔

2021年度 USO 沖縄 サービスサルット受賞者

貴殿の素晴らしい献身的なサポート、そして任務へのご尽力に感謝の意を示すため、本日この場をお借りしてサービスサルットの表彰をさせていただきます。あなたは日本国および日本国民を代表する意識を高く持ち最善を尽くしておられます。日本国民の享受する自由、地域の平和と繁栄が保たれているのも皆様の無私の奉仕によるものであります。改めて、日本国海上自衛隊の模範となる軍務に心より感謝いたします。

Okinawa, Japan



那覇航空基地自衛官ファミリー



このコーナーでは、海上自衛隊 那覇航空基地内で勤務する「夫婦」「親子」「兄弟・姉妹」にスポットをあて「自衛官ファミリーの絆」を紹介します。第2回目は、夫婦ともに第5航空隊で勤務する菊地夫妻について紹介します。

質問事項

- 1 職種(仕事内容)
- 2 出身地
- 3 出会った部隊等
- 4 夫婦で自衛官として勤務しての感想
- 5 お互いに一言！(感謝や要望等)

那覇航空基地隊 菊地夫妻 第5航空隊



- 1 【夫】操縦士…現在、第5航空隊でP-13C哨戒機のパイロットとして、主に沖縄周辺海域の警戒監視任務を行っています。その他、フライト業務以外にも、訓練掛員として主に操縦士の訓練管理業務を担当しています。
- 2 【妻】操縦士…主人と同じく、第5航空隊で機長資格を取得するために副操縦士として飛行作業に従事しつつ、その他の業務として総務班総務掛で事務作業等を担当しています。
- 3 【夫】京都府
【妻】鹿児島県
最初は、山口県下関市にある小月教育航空隊の航空学生同期入隊として出会いました。結婚したのは、すべての教育等の課程が終わり幹部自衛官になってからです。
- 4 【夫】良いところは、お互い同じ職種であり勤務場所も同じですので仕事に対する理解が非常に深いところです。あと、勤務体系が同じですので職務においてのスケジュール調整が必要となるのが、結構大変となる場合があります。
- 5 【妻】今までは、単身赴任で遠距離生活が多かったのですが、今は、同じ場所で勤務でき、家族一緒に生活できていることが良いことです。あと共働きですので家事など協力してもらえることも嬉しいですね。反対に、お互いが飛行配置で勤務しているため、スケジュールの調整など厳しい時もあります。でも周囲の方々に配慮していただき協力してもらっているので乗り切れています。職場の皆様のはかいらいに感謝しています。
- 6 【夫から妻へ】妻には感謝の気持ちでいっぱいです！常日頃から、子供の世話や家事をしつつ、家族のため働いてくれてありがとうございます。私には、勿体ないほどよくできた妻です。これからもよろしくお願ひします。
- 7 【妻から夫へ】主人には感謝しています。勤務が早く終わった時や休日には、料理をしてくれたり、子供たちをお風呂に入れてくれてありがとうございます！積極的に家事・育児に協力してくれるので夫婦で共働きもできて、飛行隊勤務が成り立っているのだと思います。



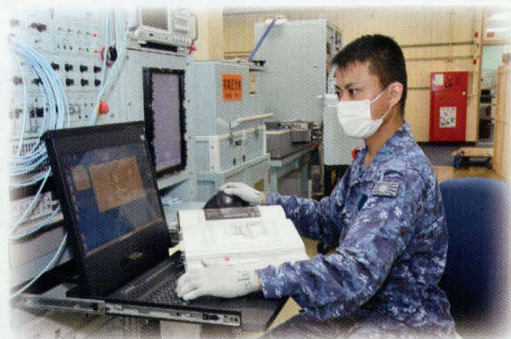
うちなんちゅ隊員紹介

第5整備補給隊 山入端3曹



毎年複数の公務員試験に挑戦していたところ、家族や知人の紹介で自衛隊への「道」もあることを知り、沖縄地本連絡本部で自衛隊の職種の説明を受けたことで海上自衛隊に興味を持ち、平成27年3月に自衛官候補生として佐世保教育隊に入隊しました。

入隊後は那覇空港近隣に所在する第5航空群第5整備補給隊に配属となり、「航空電子整備員」として勤務しています。「航空電子整備員」とは、航空機に搭載されている電子機器を点検・整備する職種です。電気・電子など工学系の知識はあまりありませんでしたが、専門知識は、千葉県にある海上自衛隊の教育機関での教育や、職場における先輩方の親身なご指導もあり、不安もなく充実した日々を過ごしています。今後は一日も早く一人前の整備員を目指し、日々研鑽を重ねていきたいと思えます。



『基地モニターの日』

5空群司令部広報班 准海尉森是人

令和3年10月29日(金)、第5航空群では、『基地モニターの日』を開催しました。

当日は、基地モニターの方々に対し那覇航空基地隊(那空基(なくうき))と略して言います。)が行っている業務への理解促進を図るため、任務の概要を本部運用班長(和田3佐)が説明、各隊の説明を各班長が説明しました。基地モニターの方々から熱心な質問を多数いただき、自衛隊に対する関心の高さに驚嘆しました。引き続き災害派遣時に編成される陸上救難隊の装備品の見学、破壊構造物搜索器(マイクロスコープ)や音響探知器を使用した遭難者搜索訓練及び被災者救護や現場指揮所などに使用するエアータントを実際に展示する訓練の展示を行いました。

陸上救難隊は、地震や風水害、航空機事故等の大規模災害から国民の生命・財産を保護することを任務とし、必要な救難装備品が配備されています。那空基では、これらの装備品がいつでも使用できるよう年間を通じ点検・整備を行っており、例年、台風シーズン前には陸上救難隊員に対する器材操作教育を行い練習の維持向上に努めていることを理解してもらいました。

訓練展示後は隊員食堂に場所を変え、体験喫食(黙食)という形でしたが那空基給養班自慢のポークカレーを堪能してもらえたことと思います。

第5航空群では、今後も「基地モニターの日」をはじめ様々な広報活動において、「見るだけでなく体験できる広報」に工夫を凝らして、海上自衛隊の魅力之余すところなく発信していくつもりです。

2022年度 海上自衛隊 第5航空群 基地モニター募集

2022年4月～2024年3月までの2年間 海上自衛隊第5航空群の基地モニターとして活動し、建設的なご意見を頂ける方を募集しています。



- 活動内容：各種基地イベント、部隊見学、体験搭乗等への参加及びアンケート、意見交換会議等を通じた意見聴取への協力
- 募集対象：20歳以上で基地周辺に在住の方。ただし、国会議員及び地方公共団体の議員や公務員は除く。
- 募集期間：2021年11月1日(月)～2022年1月31日(月)
- 募集人数：5名
- 募集要項については、第5航空群ホームページにてご確認ください。
- ホームページアドレス <https://www.mod.go.jp/msdf/naha/>
- 連絡先：海上自衛隊第5航空群司令部広報室
TEL：098-857-1191(内線5230)
メールアドレス 5aw-ckouhou@inet.msdf.go.jp

5空群ホームページ



海上自衛隊 職種紹介

このコーナーでは、海上自衛隊 第5航空群において勤務している隊員及び職種について紹介します。

初めに海上自衛隊は、「海」を勤務の場としています。周囲を海に囲まれた我が国にとって、海の安全を守ることは非常に重要であり、日夜、日本近海において、警戒・監視活動等に従事し、日本の安全を守っています。また、災害等が発生した時には、艦艇や航空機を派遣し、捜索、救助、救難物資の輸送等を行っています。

今回紹介する職種の他にも、航空管制や調理、通信ネットワーク整備など、33職種で約50種目の仕事に携わっています。

その中から今回は、那覇航空基地隊 航空整備隊 車両班で地上救難員（車両整備）及び第5整備補給隊燃料班で補給員として勤務している隊員を紹介します。

質問事項

- 1 仕事内容
- 2 将来の目標
- 3 これからの将来を決めていく後輩たちへのメッセージ

地上救難員（車両整備）…那覇航空基地隊 航空整備隊 小橋川3曹



- 1 『部隊等で保有している車両の整備や管理及び人員・貨物等の運搬を行う業務に従事しています。』
- 2 『自衛官は、体が資本なので、定年まで怪我しないように、「安全代一」で任務を遂行できるように頑張ります。』

3 『私も、自衛隊で、3年ぐらいで頑張ってみようかな？』

な？』と思いましたが、あつという間に14年が過ぎていました。「石の上にも3年」自衛隊も初めはつらいと思いますが、どの職場でも同じです。あまり固く考えずに入隊して3年は頑張ってみてください！3年頑張れると気持ちに余裕もでき気分的にも変わってきます。あと、他の仕事より、夏季・冬季休暇が長いのが魅力で、計画的に取得できるので、趣味等が多い人には向いていると思います。』



補給員…第5整備補給隊 燃料班 西山2曹



- 1 『航空燃料や地上燃料など各種燃料を取り扱い、燃料類の管理や給油業務を行う。』
- 2 『会計職員として誠に職務を全うすること。』

3 『補給員として、常に所属する部隊の任務遂行に貢献すること。』



沖繩海友会が海軍戦歿者慰霊之塔及び軍艦旗掲揚塔の修復工事を実施



一般社団法人沖繩海友会において、令和3年7月15日～19日の間、豊見城市旧海軍司令部壕にある海軍戦歿者慰霊之塔及び軍艦旗掲揚塔の補修工事が行われました。

平成20年に補修工事を行ってから、経年劣化により見難くなっていた慰霊塔の刻字塗色と色褪せていた軍艦旗掲揚塔の補修を施工業者が、足場を設置して、慰霊塔の刻字を塗色し、塔全体を塗装しました。これに合わせて桜に錨のマークも入松田副会長が錆落としと錆止め塗装を行い、業者とともに仕上げました。

慰霊塔の文字は、かつての墨痕鮮やかによみがえり、掲揚塔は先端まできれいに仕上がり桜に錨のマークも真新しくなりました。

海上自衛隊 第5航空群では、昨年度から、コロナ禍の影響で実施できていませんが、例年5月27日の海軍戦歿者慰霊の日に沖繩海友会が実施する、慰霊祭の支援を行っています。



修復中



修復完了



令和元年度慰霊祭支援の様子

「まるごと沖繩クリーンビーチ2021」ボランティア活動に参加して

那覇基地上曹会会長 徳門曹長



那覇基地上曹会（任意団体）は、令和3年11月21日（日）瀬永島ビーチ周辺の清掃ボランティア作業を行いました。

このボランティアは、沖繩クリーンコーストネットワークが主催する「まるごと沖繩クリーンビーチ2021」の趣旨に賛同し各団体等が選定したビーチの清掃活動を行う行事で、海上自衛隊那覇基地上曹会もボランティアの一環として毎年夏季の時期に実施していましたが、今年度は緊急事態宣言が開けてからの実施となりました。

当日は、11月とは思えないほど強い日差しと暑さの中、心地よい潮風に吹かれ、参加した約70名の隊員とその家族が、海岸への漂着物等の除去作業を通して、海岸を美化し地域社会及び隊員家族との交流を深める事を趣旨として、ビーチ及び周辺のゴミ拾いに励みました。当初、ゴミの量もさほどないかと感じましたが、いざ始めてみると、空き缶やペットボトル、ビニール袋など環境に悪影響を及ぼすゴミの多さに驚きました。

作業は約1時間弱と短い時間でありましたが、久しぶりのボランティア活動を行い、海を守る海上自衛官として改めて「海の大切さ」を学ぶ貴重な1日となりました。今後も、ボランティア精神を忘れることなく、各種活動を続けていきたいと思えます。



「常翔学園中学校の基地見学を実施して」

第5航空群司令部広報室 中野2尉

最高気温が27度とまだまだ夏めいた沖繩で10月17日（日）に、大阪から常翔学園中学校の修学旅行で来沖した生徒34名（先生2名）が「沖繩暑いね!」と言いながら那覇航空基地の見学に来てくれました。

見学時間も短い中、海上自衛隊第5航空群では、海上自衛隊の概要説明とP-13C哨戒機の見学及び説明を行いました。

P-13C哨戒機を始めてみた学生たちは、驚きと好奇心をみなぎらせ、興味津々に目を輝かせながら、広報員が行った装備品等の説明に聞き入り、説明を行った広報室員に対し「上部についているアンテナは、何のアンテナですか?」「チャフ（電波欺瞞紙）は、どこから発射されるのですか?」等などたくさん質問がありました。

学生さんの興味は、沖繩のティード（太陽）にも負けないぐらいの熱量で体感温度が上昇した暑くも楽しい一日でした。



「でいご」に関するご意見、ご感想、寄稿などがございましたら、沖繩二火会事務局または第5航空群広報室までご連絡ください。

■ 沖繩二火会
事務局長 後関 光利
oknikakai@yahoo.co.jp

■ 第5航空群広報室
5aw-ckouhou@inet.msdf.mod.jp
那覇市当間 252
☎ 098-857-1191 (内 5231)

編集協力委員	首席幕僚	川畑 1	佐尉
	広報室長	原 1	尉
	群司令部	川村 2	尉
	5 空	菊地 1	尉
	5 整備隊	生田 1	尉
那 空	堀 3	尉	
広 報	今村 長		